

なかよく 令和6年度11月号 かしこく 150th Anniversary 元気よく

令和6年11月29日 文責 黒木 幸博

人権学習・人権集会



11月の人権集会は、低・中・高学年に分かれ、各学年の課題や状況に応じた内容で行いました。例えば、高学年のテーマは「認め合う」でした。子供のときも大切ですが、大人になったとき、正しい人権意識、感覚を身に付けておくことはとても大切なことです。しっかり学んでいきましょう。

ありがとうございます。

お知らせ

沖縄在住の新城安哲さんから、100万円の寄付がありました。詳しくは、2月1日の150周年記念式典のときにお話しします。

学校HPの紹介

子供たちの日々の活動を紹介しています。右のQRコードからご覧ください。



宿題を忘れない「こつ」は・・・

ある小学校の先生が、宿題を絶対に忘れない子供たちに次の質問をしたそうです。

「宿題をいつしているの？」

ほとんどの子供がこう答えたそうです。

「学校から帰ったらすぐ」

また、宿題をよく忘れる子供たちにも同じ質問をされました。その答えは、決まっていなかったり、分からなかったり・・・。

つまり、宿題を絶対に忘れない子供たちはその時間になったら（無意識に）宿題をし、宿題をよく忘れる子供たちは「やろう」と思ったときに（意識して）宿題をしていました。

その先生は、次のようにまとめています。

何事も、継続するのに必要なのは「意志の強さ」ではない。「仕組化（習慣化）」することである。「がんばるぞ」「やるぞ」という意欲は時間がたつと心が疲れ、続けられなくなる。大切なのは、続けようとしていることについて、いつするのかを決めることである。

登校を例にしましょう。児童の皆さんのほとんどは「〇時〇分になったら家を出る」のが仕組化（習慣化）されているでしょう。それを頑張ろうという気持ちはないでしょう。だから無理なく続けられるのです。

歯磨きやお風呂に入ることなど、毎日何気なく続けていることも仕組化（習慣化）されているから続けられるのです。

もし、よく宿題を忘れる人がいたら、頑張っとうやろうと思うのではなく、「〇時〇分になったら宿題をする」と決めませんか？

もし、目標があり何かを頑張っている人がいたら、頑張っとうやろうと思うのではなく、「〇時〇分にそれをする」と決め、実践していくと目標が達成されるかもしれませんよ！

先生たちも学んでいます。

9月号でお伝えしたように、先生たちも「学びの秋」です。学習指導力を高めるため、授業づくりの研究や外部から講師を招いた研修に取り組んでいます。先生たちの努力が子供たちの笑顔につながることを期待しています。



職員研修の様子



2年授業（道徳）の様子



みどり学級授業
（自立活動）の様子

校長より

校長室前の【今月の言葉】

「『ばかは風邪をひかない』という。ばかとは無知のことである。無知を自覚し、何でも学ぼうという人は、うわさやデマといった「かせ」に惑わされないということと私は思う。だから私は、「ばか」でありたい。」

昨年、ある高校の卒業式で、一人の卒業生が述べた言葉です。11月は人権学習の月でした。差別や偏見も、無知が原因だと思います。私たちは、自分を含めみんなが幸せに生きるため、いろいろなことを学んでいかなければいけません。そのことを、当時の高校生が教えてくれました。